

身体障害者診断書・意見書（肢体不自由）

総括表

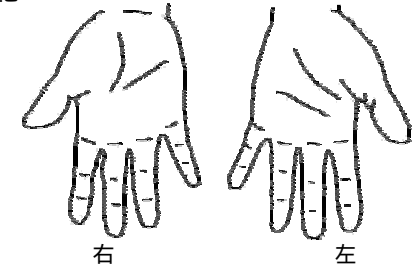
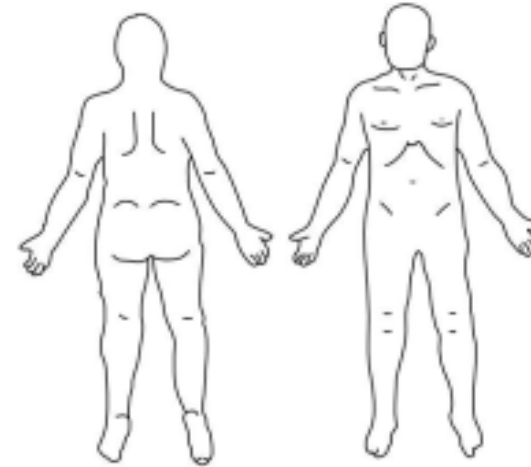
氏名	年 月 日生	男女
住所		
障害名（部位を明記）		
原因となった 疾病・外傷名	交通・労災・その他の事故・戦傷 戦災・疾病・先天性・その他（ ）	
疾病・外傷発生年月日	年 月 日	場所
参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む）		
障害固定又は障害確定（推定） 年 月 日		
総合所見		
〔将来再認定：要（ 年 月 ）・不要〕		
その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断します。併せて以下の意見を付します。 年 月 日		
病院又は診療所の名称	所在地	電話（ ）
診療担当科名	科	医師氏名 印
身体障害者福祉法第15条第3項の意見〔障害程度等級についても参考意見を記入〕 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・該当する（ 級相当） ・該当しない		
注意 1 障害名には現在起こっている障害、例えば両眼失明、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、角膜混濁、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 障害区分や等級決定のため、福島県地方社会福祉審議会から改めて別紙所見の部分について、お問い合わせする場合があります。		

肢体不自由の状況及び所見（全葉2枚中1枚目）

神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを で囲み、下記空欄に追加所見を記入すること）

- 感覚障害（下記図示）：なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
- 運動障害（下記図示）：なし・弛緩性麻痺・痙攣性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
- 起因部位：脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
- 排尿・排便機能障害：なし・あり
- 形態異常：なし・あり

参考図示



右		左
	上肢長 c m	
	下肢長 c m	
	上腕周径 c m	
	前腕周径 c m	
	大腿周径 c m	
	下腿周径 c m	
	握力 k g	

× 変形 切離断 感覚障害 運動障害
（注）関係ない部分は記入しない

動作・活動 自立 - 半介助 - 全介助又は不能 - ×、（ ）の中のものを使うときはそれに を付けること。

寝返りする。		ブラッシュで歯を磨く（自助具）	右	左
足を投げ出して座る				
椅子に腰掛ける		顔を洗いタオルで拭く		
立つ （手すり、壁、つえ、松葉づえ、義肢、装具）		タオルを絞る		
		背中を洗う		
家の中の移動 （壁、つえ、松葉づえ、義肢、装具、車いす）		二階まで階段を上って下りる （手すり、つえ、松葉づえ）		
洋式便器に座る		屋外の移動（家の周辺程度） （つえ、松葉づえ、車いす）		
排泄の後始末をする				
（箸で）食事をする（スプーン、自助具）	右	公共の乗り物を利用する		
	左	坐位保持可能時間（背もたれあり・なし）	約	分
コップで水を飲む	右	立位保持可能時間		
	左	（つえ、松葉づえ、義肢、補装具）	約	分
シャツを着て脱ぐ		歩行可能距離（つえ、松葉づえ、義肢、補装具）		
ズボンをはいて脱ぐ（自助具）		100m未満 ・ 1km未満 ・ 2km未満		

注1 身体障害者福祉法の等級は機能障害（impairment）のレベルで認定されますので（ ）の中に が付いている場合、原則として自立していないという解釈になります。

2 片麻痺の場合は患側の評価を記入してください。


- 関節可動域 (ROM) と筋力テスト (MMT) -

肢体不自由の状況及び所見 (全葉 2 枚中 2 枚目)

[この表は必要な部分を記入すること。]

筋力テスト		関節可動域		筋力テスト		関節可動域		筋力テスト	
		180 150 120 90 60 30 0 30 60 90				90 60 30 0 30 60 90 120 150 180			
() 前屈				頸	() 左屈			右屈 ()	
() 前屈				体	() 左屈			右屈 ()	
() 前屈				幹	() 左屈			右屈 ()	
() 前屈					() 左屈			右屈 ()	
右	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90			肩	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180			左	
() 屈曲				() 伸展				屈曲 ()	
() 外転				() 内転				外転 ()	
() 外旋				() 内旋				外旋 ()	
() 屈曲				肘	() 伸展			屈曲 ()	
() 回外				前	() 回内			回外 ()	
() 掌屈				腕	() 背屈			掌屈 ()	
() 掌屈				手	() 背屈			掌屈 ()	
右	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90			中 手 指 節 (MP)	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180			左	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
右	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90			近 位 指 節 (PIP)	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180			左	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
右	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90			股	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180			左	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 外転					() 内転			外転 ()	
() 外旋					() 内旋			外旋 ()	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
右	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90			膝	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180			左	
() 屈曲					() 伸展			屈曲 ()	
() 底屈				足	() 背屈			底屈 ()	

注：
 1. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
 2. 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示方法とする。
 3. 関節可動域の図示は、|←→|のように両端に太線を引き、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線(〽)を引く。
 4. 筋力については、表()内に×印を記入する。
 ×印は、筋力が消失又は著減(筋力0.1.2該当)
 印は、筋力半減(筋力3該当)
 印は、筋力正常又はやや減(筋力4.5該当)
 5. (PIP)の項母指は(IP)を指す。
 6. DIPその他手指の対立内外転等の表示は、必要に応じ備考欄を用いる。
 7. 図中塗りつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動は、この部分にはみ出し記入となる。

例示
 (×)伸展  屈曲()

備 考